

平成25年度 国語科の授業改善のための方針 8月23日版

1 本年度の方策

①授業で生かす

- ・読む（音読・黙読・朗読等）活動の恒常化
- ・文学的文章、説明的文章の読み取りの基本の指導
- ・ノート指導の充実
- ・話す・聞く活動の設定（朝の会でのスピーチ、授業での対話、ペア・グループ・学級全体での話し合い）
- ・文章表現力向上のための書く活動の設定
- ・他教科に関連付けた「伝え合い」

②全校で生かす

- ・読書活動の充実（朝読書の時間の確保や、読書旬間の充実）
- ・読解の手立ての具体化
- ・具体化された読解の手立てをもとにした、文章表現力向上のための書く活動の設定
- ・辞書活用の習慣化
- ・『話型』『声の大きさ』の提示
- ・ひらがな、かたかな、漢字練習

2 児童の実態

- ① 5年生を対象に実施した、「平成25年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」から抜粋して、領域ごとの課題を以下に挙げる。  
（ ）内は、正答率の平均である。
  - 「聞くこと」（86%） 4問の正答率は高く、メモを取る力も含めて聞く力が身に付いているといえる。
  - 「漢字の読み」（72%） 二字熟語の2問（88%）はできているが、訓読みの2問（56%）に課題がある。
  - 「物語の読解」（63%） 関心・意欲に関する問題（93%）1問と、場面設定・表現の特色・中心人物の心情の読解についての3問（53%）との差が大きい。
  - 「説明文の読解」（46%） 適切な接続語を選ぶ力は身に付いている（71%）が、指示語の示す内容（5%）をとらえられていない。
- ② 行事や授業で司会をしたり、話したりする経験が多く、話すことへの抵抗感が少なく、大きな声ではっきりと話すことができる児童が多い。しかし、自信をもって話したり、意図をもって聞いたりすることへの苦手意識が見られる。
- ③ 日記指導など、日常的な書く活動の継続により書くことへの抵抗が減ってきた。
- ④ 文章表記の約束（句読点、「」の使用、作文用紙の使い方等）が不十分な児童がいる。
- ⑤ 文字を正しく読んだり書いたりする力がついてきているが、個人差が大きい。

3 平成24年度の成果と課題（☆成果 ●課題）

- ☆「言語活動の充実」を意識した授業を行ったことにより、自分の考えを表現することへの抵抗が少なくなり、自信を持って話したり書いたりすることができるようになってきた。
- ☆文学的文章や説明的文章の読解において、基本的な用語を低学年から「学習の引き出し」として指導することを通して、自力で文章を読み取る力をつける系統が作られてきた。
- 用語の指導で自力で文章を読み取る力を身に付けるには、1年生からの積み重ねが重要であるため、今後も「学習の引き出し」による指導を継続していく。
- 対話・記録・要約・説明・感想・発表・討論・解説・論述・鑑賞など、多様な言語活動を、様々な教科のなかで経験させることが大切である。

4 学年ごとの重点目標

学年	問題点	重点目標
1年	自分の考えを友達に伝えることが苦手な児童がいる。 ひらがなを正しく読んだり書いたりする力がついてきてはいるが、「は」「を」「へ」など間違いやすい字が定着しきれていない。	自分の考えを持たせ、伝える方法を指導していく。 プリントなど練習問題を繰り返し、定着を図る。
2年	自分の考えを友達に伝えることが苦手な児童がいる。	自分の考えを持たせ、伝える方法を指導していく。
3年	漢字の知識量が少ない。	一定の基準を達成できない場合は、再テストなどを行い、漢字の知識量を増やす。
4年	漢字の知識はあるが、語彙力が弱い。 登場人物の気持ちや情景の描写を的確に読み取る力が十分でない。	読書活動を進める。お互いに本を紹介しあい、本に親しむ環境を整える。 多読と精読を繰り返し、表現の細かな違いによるニュアンスを読み取れるようにする。
5年	漢字の読み書きが苦手。 語彙力が乏しい。	新出漢字だけを覚えるのではなく、その漢字の熟語などを書く活動を行う。 辞書を活用する。
6年	話す・書くの領域での、効果的な表現のための構成力が弱い。	書かれていることの内容だけでなく、効果的な述べ方や書きぶりを学び、自己の表現に活用できるようにする。

**「学年ごとの重点目標」については、各学年からの表現をそのまま載せています。**